



Bangladesh の難民キャンプ内に MSF が設置した水飲み場。衛生面を考慮し、蛇口を高い位置に取り付けている。

特集
1

ロヒンギャ危機から5年。 明日への希望を絶やさないために

特集
2

財務・活動ハイライト2021
支援者さまお一人お一人の力でできたこと

【連載】

チーム国境なき医師団の輪
吉田幸治の帰国報告

日本からのスタッフ派遣状況

22の国と地域47人(2022年8月25日現在)



ロヒンギャ危機から5年。明日への希望を絶やさないために

2017年のミャンマー軍による大規模軍事作戦を機に、現在も100万人近いロヒンギャの人びとがバングラデシュで避難生活を送っています。資金不足などを理由に他団体の撤退が相次ぐ中、国境なき医師団(MSF)が続ける援助活動をご紹介します。



キャンプ内の急斜面を、竹材を担いで運ぶ男性。モンスーンが多い地域のため、家の補強は欠かせない。

他国へ逃れても奪われ続ける希望

世 界最大の難民キャンプとなっている、バングラデシュのコックスバザール県にあるクトウパロンIIバルカリキャンプ。周辺に小さなキャンプも点在する中、敷地面積約12平方キロメートル、東京都の千代田区ほどの通称「メガキャンプ」には、区民の10倍近くに当たる64万人弱の人びとが、将来への希望も、法的な地位も得ることができないままひしめくように暮らしています。

2017年以降、バングラデシュへ逃れたロヒンギャの人びとは、国連が発行する登録証は持つていないものの難民認定を受けていません。そのため、キャンプの外に出て就業することも、教育を受けることも、自由に移動することさえもできないのです。

過密で不衛生な環境の中、十分な食料も得られず、ここへ到着した当時と変わらない竹や廃材でできた家に住み、生活のほぼ全てを人道援助に頼らざるを得ない暮らしをいまも続けています。

人びとの不安に 応えるケアを届ける

MSFはキャンプ内の診療所で、

基礎医療を中心に提供するほか、水道やトイレの設置・管理などの衛生面を精神的に支援。またミャンマーで家族や知り合いなどが目の前で殺害され、自身もひどい暴力を受けるなど心的外傷を負った多くの人びとに、心のケアを提供してきました。

しかし、先の見えない状況に加え、国際社会の関心も徐々に薄れ、他の団体が担っていた医療援助や食料配布、給水などの支援が激減。さらに人道援助の手が全く届いていない、コックスバザールから遠く離れたバサンチャール島への難民移送計画も、ロヒンギャの人びとの不安に追い打ちをかけていて、心のケアのニーズは高まるばかりです。

「今後も国際的な支援が、難民キャンプに暮らす私たちロヒンギャの生活を支え続けられると思いますか？」
——これは今年6月、当キャンプを訪問したMSF日本事務局長の村田慎二郎に、家族に起こった悲劇を話してくれたロヒンギャの女性から出てきた問いかけです。

MSFは皆さまの思いのこもった

ご寄付を力にして、今後もロヒンギャの人びとへの支援を継続します。そして国際的な取り組みの強化も提唱し、少しでもよりよい未来を手に入れるためのサポートを続けます。

厳しいキャンプでの生活を少しでも快適に

避難生活を支える工夫

皆さまのご寄付によって、この5年間でさまざまな対応が実現しています。その一部をご紹介します。

1 多くの人に無償で治療を届けるために 竹材の病院と看板



難民キャンプ内に行くつかある診療所のうち、左の診療所は、患者さんの警戒心を和らげるために、現地の生活様式に合わせて竹で組み上げた建物にしています。入り口には看板を設置し、現地の言語や英語の多言語で表記。いずれも無償で医療を提供していることを明確に示しています。

3 誰もが気兼ねなく、安全に使える 簡易トイレ・手洗い場



当たり前のことかもしれませんが、たとえ緊急時の簡易トイレであっても男女を別々にすることは、誰もが安心して使えるだけでなく、防犯の観点からも重要です。また入り口には手洗い場を設置。病原菌を居住エリアへ持ち込まない工夫を施しています。

2 清潔な水の、大量供給を実現 塩素投入装置付きの給水機



100万人近くの人びとが暮らす難民キャンプで一人でも多くの人の健康を支えるため考え出されたのが、この画期的なシステム。キャンプ内のいくつかの水タンクには、塩素を自動で投入する機能が装備され、消毒された清潔な水を提供しています。

4 診察までの長い待ち時間を有効に 啓発活動



無償で質の高い医療を提供しているMSFの診療所には、たくさんの患者さんが訪れます。そのため、待ち時間が長くなることも少なくありません。私たちはこの時間を利用し、手洗いなどの保健衛生の指導や、栄養管理の必要性などを説明。患者さんやその家族の健康状態の底上げを図っています。

Local Story – 現地の人の声

医者になる夢があります。でも、それはかなわない — アンワルさん



僕はもうすぐ16歳になります。勉強が大好きですが、学校には通っていません。この難民キャンプで受けられるのは、初等教育までだからです。唯一の学びのチャンスは地域の先生の授業で、とても心を込めて教えてくれます。僕は世界中の同世代の若者に呼びかけたいです。「いま学べる機会を、大切にしてほしい」。僕と難民キャンプの仲間たちに、その機会はないのですから。

Staff Story – スタッフの声

「当たり前の生活」を取り戻そうと たくましく生きるロヒンギャの人びと

皆さんの中には、難民=かわいそうという印象を持つ方もいるかもしれませんが、でも私が心を打たれたのは、多くの困難や悲しみを抱えながらも、テントの隙間で野菜や香辛料を育てたり、技術を生かして仕立て屋さんを始めるなど、何とかして生活を立て直そうとする人たちの懸命な姿でした。そしてそれを受け入れ、きょうだいのように支えています。



た現地スタッフの姿も強く心に残っています。
アドミニストレーター 末藤 千翔



MSFのバングラデシュでの対応

2021

大規模火災で MSFの診療所も全焼

簡素な住居に瞬間に火の手は広がり、4万5000人以上が避難。人びとは、さらなる苦境に立たされた。

2020

新型コロナウイルス感染症 に対応

MSFはコックスバザール県下における全ての活動先医療施設に、隔離病棟を設置。300床の隔離ベッドを確保して対応。



2018

難民キャンプを襲ったジフテリアに緊急対応

ミャンマーで予防接種を受けることができなかったため、子どもを中心に流行が急速に拡大。MSFは緊急対応を実施。

2017

軍事作戦を機に70万人以上が ミャンマーから国外へ移動

バングラデシュへ逃れたロヒンギャの人びとに1992年から医療援助を提供していたMSFはすぐさま対応を開始。医療のほか水と衛生も支援。



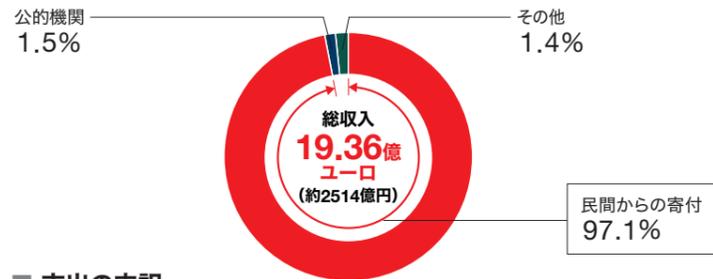
ロヒンギャの人びとをめぐる苦境とは？

1962年以降、ビルマ(現ミャンマー)のラカイン州に住むイスラム系少数民族ロヒンギャは度重なる迫害や差別を受け、強制移住を余儀なくされてきました。82年にはミャンマーの市民権をなく奪われて「無国籍」となったため、教育を受けることはもちろん就職や結婚も認められていません。また予防接種も受けていないことから、キャンプ内での感染症の流行は、致命的な結果を招く恐れがあります。

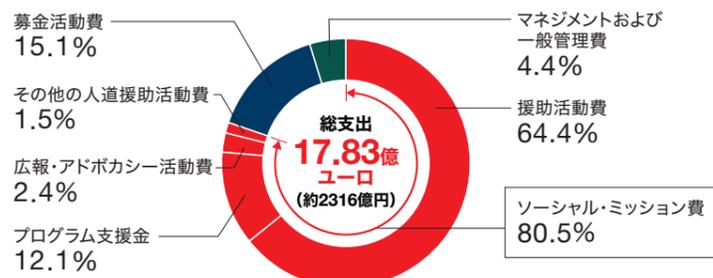
国境なき医師団全体の財務・活動報告

日本を含む、MSF全体の2021年の総収入は、合計19.36億ユーロ(約2514億円)です。全体で6802人の海外派遣スタッフを70以上の国と地域へ派遣しました。

収入の内訳



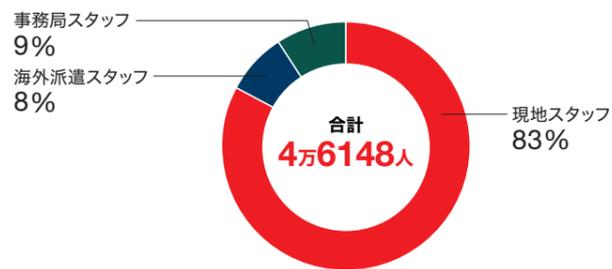
支出の内訳



ご支援くださった世界中の皆さま

約700万人

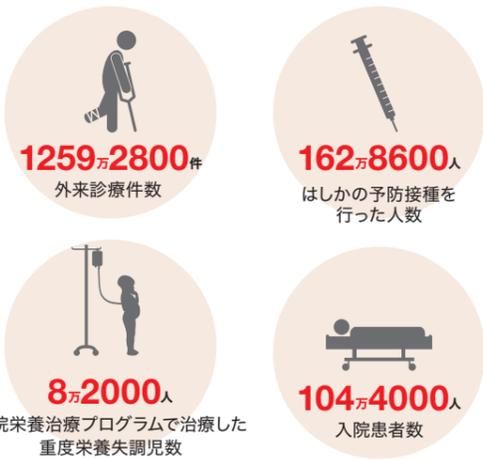
スタッフの内訳



MSFの活動地 [72の国と地域]



MSFの活動実績(一部紹介)



財務・活動ハイライト2021
支援者さまお一人お一人の力でできたこと



皆さまのおかげで医療を届けることができました。

日本からは援助活動のために88.6億円を拠出しました。この支援金はオペレーション組織*を通じて、39の国と地域の各プログラムで役立てられました。支援金が多く配分された上位3カ国の主な活動をご紹介します。

ナイジェリア(約9.2億円)	暴力・性暴力被害者支援、母子保健、栄養失調、コレラ
南スーダン(約5.6億円)	紛争による負傷者治療、難民・国内避難民支援、母子保健、洪水緊急援助
イエメン(約5.4億円)	紛争による負傷者治療、基礎医療、コレラ、はしか

*フランス、スイス、スペイン、ベルギー、オランダ、コートジボワールに設置。世界各地のプログラムを運営管理し、チームを編成・派遣する。



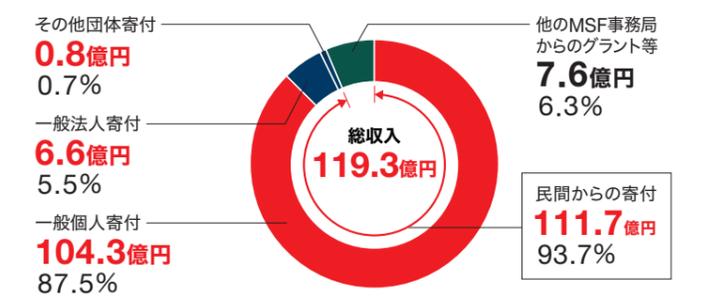
MSFの診療所で診察の順番を待つ避難民の人びと。重度の急性栄養失調、はしか、マラリア、下痢を患う子どもたちが非常に多い(ナイジェリア)

全文は『活動報告書2021年度版』8・9ページでご確認いただけます。併せて財務報告書もご覧ください。
www.msf.or.jp/publication/annualreport

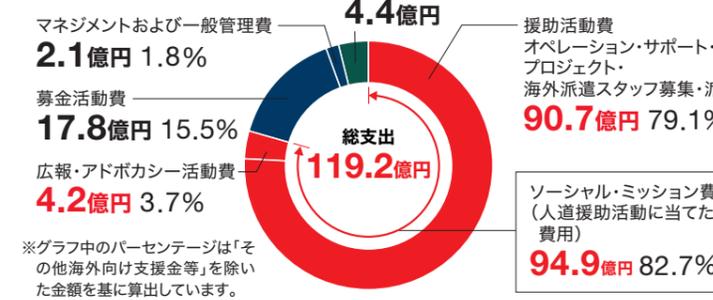
国境なき医師団日本の財務・活動報告

国境なき医師団(MSF)日本の2021年の総収入は、合計119.3億円です。日本から、スタッフ90人(延べ106回)の、31の国と地域への派遣が決まりました。皆さまのご支援に心より感謝申し上げます。

収入の内訳



支出の内訳*



ご支援くださった日本の皆さま

40.2万人

日本からのスタッフ派遣数

90人 延べ 106回

Staff Story – スタッフの声

患者さんに薬を届けられるのはご寄付のおかげ

さとう こうた 佐藤 功大 薬剤師/リビア

北アフリカのリビアで薬剤師として活動しました。リビアは、紛争などから逃れるためにアフリカや中東諸国から欧州を目指す人びとの中継地です。MSFは、逃げる途中で沿岸警備隊に強制的に連れ戻され、リビアに捕らえられている難民・移民に医療を提供しており、私の役割は収容センターに訪問診療をするチームに必要な薬を渡すことでした。収容センターの環境は劣悪で、皮膚病や栄養失調を患

う人が多く、低栄養の人には栄養治療食を提供することもありました。必要な薬を患者さんに届けられるのは、皆さまからのご寄付のおかげです。リビアで活動を拡大するために薬局を立ち上げる際には、薬の在庫を管理するシステムを導入し、仲間と協力しながら医療品を無駄にしないように努めました。今後もMSFの活動に参加し、成長していきたいと思っています。



MSFの薬局にて、ベテランの薬剤師の同僚と。

Staff Story – スタッフの声

栄養失調の子どもたちの命と向き合った日々

いわかま ゆみ 岩川 真由美 小児科医/アフガニスタン

2021年9月から約3カ月間、アフガニスタン西部ヘラート州の、入院栄養治療センターで小児科医として活動しました。武装勢力タリバンが統治を始めた直後で、各地で病院が閉鎖されていて、MSFの病院に患者さんが集中していました。病院の子どもたちの手足は栄養失調のために枯れ枝のように細くなって、目が落ちくぼみ、皮膚がカサカサに乾いており、中には意識

がない状態の子どももいました。どの子どもも同時に助けたかったのですが、医師はいつも不足しており、必死に治療を続けました。医療援助の結果、子どもの死亡率は減りましたが、たくさんの子どもたちが亡くなっていくのは、つらかったです。こんな私たちに力を与えてくれたのは元気になって退院していく子どもたちでした。患者さんとお母さんの笑顔を見ることが活動中の心の支えになりました。



ヒジャブ姿の岩川。この服装で子どもたちの治療に当たっていた。

ご確認ください

支援者対応担当から皆さまへご連絡

● 寄付の税制優遇措置（寄付金控除）について

MSF日本への寄付は「確定申告」を行うことで寄付金控除の対象となります。申請の際には、MSF日本が発行した領収書が必要となります。なお、**年末調整では寄付金控除の申告は行えません**のでご注意ください。

● 領収書のお届け時期について

「毎月の寄付」でご支援の皆さま

・2023年1月下旬までに、2022年度年間領収書をご登録住所宛てにお送りいたします。

「今回の寄付」でご支援の皆さま

・MSF日本への入金確認後、都度発送しております。
・1年分まとめて発送の設定にされている方には、2023年1月下旬にご登録住所宛てにお送りいたします。

※例年、お送りした領収書が宛先不明で返送されるケースが多く発生しております。領収書をご希望の方は、11月末までに**公式ウェブサイト上のマイページ(右参照)より登録住所のご確認/ご変更**をお願いいたします。

● 2022年度の税制優遇措置（寄付金控除）対象の寄付のお申し込みについて

2022年11月以降のお申し込みで2022年度の寄付として領収書をご希望の方は、**ゆうちょ銀行へのお振り込み(2022年12月末日付の振込完了まで)**をお願いいたします。その他のお支払い方法の場合、11月以降のお申し込みは2023年度(来年度)の寄付となる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

虐待・搾取・ハラスメントのない活動環境の実現を目指して——2021年度ご報告

MSFでは、世界各地の活動地および事務局で、いかなる虐待や搾取、ハラスメントも許さない活動環境づくりを推進しています。これらを予防、発見し、また対応するため、組織内外からの通報体制を以前から設け、患者さん、地域社会、スタッフなどに利用を奨励しています。2021年は延べ6万3000人がMSFに勤務し、通報・苦情の総数は539件となりました。虐待ないし不適切行為に当たると確認された事態に関しては、重大性に応じて、解雇や停職、警告などの処分を行いました。なお、現地採用スタッフからの通報件数は262件(前年比約52%

増)となりました。通報の意識と通報体制への信頼が増加傾向にあるといえる一方で、活動地の全スタッフの90%を占める現地スタッフによる通報が全体の約半数に留まり、課題が残ります。また弱い立場にある患者さんや地域住民からの通報は依然として少なく、既存の体制をさらに適用・改善する必要があります。MSFは引き続き、虐待や搾取、ハラスメントのない職場環境を実現・維持するために、また患者さんたちに危害を加えないために、一丸となって取り組むとともに、透明性を持って皆さまにご報告いたします。

国境なき医師団日本 事務局長 **村田 慎二郎**

2021年度の実態調査について詳細はこちらから <https://www.msf.or.jp/about/information/detail/msfj20220728.html>



私たちが担当しています!



(住所等の登録内容の確認・変更を行えます)

あなたとつながる、ひろがる。

チーム 国境なき医師団の輪

人事・財務マネジャー 吉田幸治の帰国報告



国境なき医師団(MSF)日本の資金調達部長から、海外派遣スタッフとして南スーダンへ。その決意をつづった『ACT!』2月号に同封した吉田幸治の手紙に多くの反響をいただきました。初派遣から帰国した吉田が知った現地の実情や思いを、皆さまとシェアします!

皆さまからいただいた応援メッセージの一部をご紹介します!

- 吉田幸治さん、お手紙読みました。長年の夢が叶って良かったですネ。どうか元気で活やくした6カ月後には元気で帰ってきてください。
- 医師でなくとも、財務や人事の仕事も必要のですね。戦争が終わりますように。皆さまが無事で暇になりますように日々祈っております。

「命を助けたい」。最初は気負っていたものの……

私が派遣された南スーダンのオールドファンガクは川と沼に囲まれた湿地帯で、基本的な移動手段は徒歩かカヌーです。町には水道も電気もないため、病院をはじめとするMSFの施設は全て自分で賄っていました。そんな日本とはかけ離れた環境の中、困難は到着した日(昨年12月15日)から始まりました。初派遣の私にとって頼みの綱だったアシスタントの現地スタッフが、マラリアにかかってしまったのです。しかもその日は、給与の支払い日。前任者のフランス人にも手伝ってもらい、何とか無事に済ませることができましたが、慣れないこともあって、最初の1カ月は苦労の連続でした。ようやく落ち着いたのは、今年の3月に人事アシスタントのディウ(上写真右)と財務アシスタントのチュオル(上写真左)が入ってくれてからです。性格は全く違いますが、どちらも本当に一生懸命。

おかげで私も頑張れました。それに「命を助けたい」と気負っていた私に対して、2人をはじめとする現地スタッフは「自分たちの地元だから貢献するのは当たり前。それを助けてくれるMSFだからこそ働きたい」という思いを持っていました。道端で転んだ人を助けるような自然さに、肩に入っていた力も次第に抜けてきました。

皆さまの思いと、現場はつながっている。改めて感じた、MSFの存在意義

MSFはオールドファンガクで年間約6000人に医療を提供しています。へき地で他の団体の参入も少ないため、MSFの病院にはいつも大勢の患者さんが訪れていて「もしこの病院がなかったら、どうなるんだろう?」と、ここで活動することの意義を日々実感しました。皆さまのお気持ちは、確実に現地の人びとに届いていると、この目で確認することができました。



着任直後の不安の多い時にサポートに来てくれた“恩人”のロバート(写真右)から、休日に財務手続きの方法を教わる吉田。



もともと苦手なテント生活。雨が降ると手前の足場は浸水し、時にはテントの中まで水が入ってくることも。



現地の食事がほとんど口に合わなかった吉田が、気分が唯一あがった「TANG」という缶に入っている粉ジュース。

■ ご相談はお気軽に

遺言書の作成方法から注意すべきポイントまで、遺贈寄付について詳しくまとめた資料をご用意しています。またお電話で個別のご相談もお受けしておりますので、お気軽にご連絡ください(ご相談無料)。

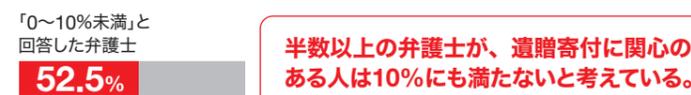
国境なき医師団
遺贈寄付
ご相談ダイヤル
03-5286-6430
(平日10:00~17:00)
担当: 荻野(写真左)・今尾(写真右)
Eメール: legacy@tokyo.msf.org

Q1. 【生活者に質問】あなたは「遺贈」をしてみたいと思いますか。
(n=2,000 ※60~70代の男女) [日本財団実態調査引用部分]



60歳以上の2割以上が遺贈に意向または関心あり。

Q2. 【弁護士に質問】遺贈寄付に関心がある人は、どのくらいいらっしゃると思いますか? 全国の60~70代の男女を想定し、ご回答ください。
(n=158 ※遺贈寄付を知っていると回答した弁護士158人) [当団体実態調査]



半数以上の弁護士が、遺贈寄付に関心のある人は10%にも満たないと考えている。

差を感じました。今尾 この調査で興味深いのは、生活者のほうが弁護士より一歩進んでいる、つまり、自分らしい人生の選択として遺贈寄付を考えているように見えることです。荻野 確かに相続や終活の意識は急速に変化している感じがしますね。土業の皆さまも含め、遺贈寄付の意義を広くお伝えしていきたいです。今尾 60歳以上の2割以上が遺贈寄付に関心ありとは(7ページQ1)。多くの方が関心を持たれていることがわかりますね。実際、MSFにいただくお問い合わせも毎年増えています。荻野 一方、弁護士の半数以上は「遺贈寄付に関心がある人は10%未満」と考えていて、温度差を感じました。今尾 この調査で興味深いのは、生活者のほうが弁護士より一歩進んでいる、つまり、自分らしい人生の選択として遺贈寄付を考えているように見えることです。荻野 確かに相続や終活の意識は急速に変化している感じがしますね。土業の皆さまも含め、遺贈寄付の意義を広くお伝えしていきたいです。

相続や終活での相談先といえば弁護士。MSFはこのたび、全国の弁護士の皆さんに遺贈寄付に関するアンケートを実施しました。そこで明らかになった意外な事実とは?

今号のテーマ
弁護士約150人に
聞いてみました 遺贈寄付

このコーナーでは遺贈寄付相談窓口の荻野一信と今尾礼子(7ページ写真)が、皆さまからよくいただく疑問や気になるテーマをピックアップしてお届けします。

遺贈寄付相談室だより



MSFが支援するシエラレオネの病院に入院中の赤ちゃんをあやす看護師。

スマートフォンから▼



「助けたい」その思いをつなぐ こころの手紙

国境なき医師団(MSF)には、世界中での活動を通して、数々の出会いがあります。皆さまや患者さん、スタッフの「あの人の伝えたい」という思いを、お手紙でご紹介します。

“国境なき医師団が不要な世界”を目指して

まだ世界がどうしても必要としていて、でも僕にはできないことを「国境なき医師団」はしている。寄付は、代理行為の依頼なんだと思うようになりました。いつもありがとうございます。

いつか「国境なき医師団」が不要な世界に。少なくとも出番が減る社会に。そのために僕は僕でやります。共にこれからも歩んでいきましょう。

支援者 長谷川 亮祐様 (神奈川県)

公式ウェブサイトの「こころの手紙」を特集したページで、温かい思いがたくさん詰まったお手紙をどうぞお読みください。



MSFのあんなこと、こんなこと。
事務局長“村田”が答えます！

『ACT!』を通じ、皆さまから村田にいただいたたくさんのご質問。今回はその一部に回答させていただきます。

Q1 派遣者の派遣先は、どのように決めるの？ (自薦、他薦？ それとも村田さんの判断？)

村田 現地の活動を統括するオペレーション組織から届くリクエストに応じて、MSF日本事務局のフィールド人事部の事務局長が、海外派遣スタッフを推薦し送り出しています。最も重要なのは現地のニーズとのマッチングです。例えば今年はウクライナに日本から数人のスタッフを派遣していますが、ウクライナには病院があり、医療水準も高く、医療従事者もいます。しかし、空爆で多数の負傷者が運ばれてきた場合の対応は難しいとの判断から、最初は救急医を派遣しました。

併せて応募から派遣までの流れをまとめたページもご覧ください。
www.msf.or.jp/work/expat/flow/

Q2 英語が通じない活動地でのコミュニケーションは？

村田 MSFが活動している約70の国や地域では、必ず現地に英語がフランス語を話せるスタッフがいいます。現地の言葉も話せますので、その人たちを通訳として雇用し、コミュニケーションを取っています。例えば、イラクで私が新しいプロジェクトを立ち上げた時、最初にしたことはいい通訳を見つけることでした。MSFの憲章に賛同する人物かどうか採用の重要なポイントです。患者さんたちとの会話や、現地当局(保健省)との折衝、そして他の現地スタッフとのコミュニケーションにおいて重要な役割を果たしています。

ニュースレター ACT! 2022年10月号

発行元
特定非営利活動法人 **国境なき医師団日本**
〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付・ご登録情報 に関するお問い合わせ
TEL 0120-999-199
※ご住所など、ご登録の情報についての変更や、「毎月の寄付」の変更は左記までご連絡いただくか、マイページでお手続きください。
平日9:00~18:00 / 土日祝日、2022年12月29日~2023年1月4日休業
通話料無料
スマートフォンから▲

遺贈 に関するご相談・お問い合わせ
TEL 03-5286-6430 担当者直通
平日10:00~17:00 / 担当: 荻野、今尾

2022年8月末時点の情報です。最新情報は公式ウェブサイトをご覧ください。
ぜひチェック&フォローしてください

公式ウェブサイト **www.msf.or.jp**
Facebook @msf.japan
Twitter @MSFJapan
LINE @msf_japan
YouTubeチャンネル 国境なき医師団日本
活動中のリアルな風景や、スタッフ・患者さんの姿をご紹介
最新ニュースやイベントのご案内、スタッフの活動レポートなど
音や風景とともに活動地の様子が分かる

ご協力をお願いします

●『ACT!』のアンケートにご協力ください
2021年度のMSFの財務・活動ハイライトのお届けの時期や、『ACT!』の送付頻度などについて皆さまのご意見をお聞かせください。ぜひ下記のURLからご回答をお願いします。

締め切りは**2022年11月30日(水)中**です。

ご協力くださった方の中から抽選で10名様にMSFオリジナルランチバッグ(写真右)を差し上げます。



WEB <https://form.run/@act-2210>

スマートフォンから▶

特集1の追加情報や村田の現地訪問記はウェブで！

www.msf.or.jp/news/special/rohingya/index.html

スマートフォンから▶

MSFの難民・避難民援助の基礎は『ACT!』過去号をチェック！

www.msf.or.jp/publication/pdf/newsletter/202206.pdf

スマートフォンから▶